

創立 88 年 広島国際学院 報

建学の精神
教育は愛なり

第 98 号
平成 27 年 9 月 1 日発行

特集

地域連携

オリジナル鉄板料理開発プロジェクト 安芸太田町との地域連携



本大学サポーター養成プロジェクト「高城チャレンジ」の参加メンバー。大学のさまざまなイベントでの活動を通して実行力やリーダーシップ等を身につけていく。オープンキャンパスでは前日の清掃・設営準備を行い、当日もキャンパスアドバイザーとして来場者の案内・誘導にあたり、学科展示スタッフとしても活躍した。

特集 地域連携

オリジナル鉄板料理開発プロジェクト
安芸太田町との地域連携

工学部

新たな知識を求め高まる向学心

情報文化学部

被爆 70 年、平和への祈りが形に

総合教育センター

社会で生きる知識と技能を習得

短期大学部

クルマの技術、学び、教えて深める

高校から発信

目次	
特集 地域連携	1・2
新たな知識を求め高まる向学心 工学部	3
被爆 70 年、平和への祈りが形に 情報文化学部	4
社会で生きる知識と技能を習得 総合教育センター	5
クルマの技術、学び、教えて深める 短期大学部	6
高校から発信	7・8
第 27 回学外展	9
留学生交流会	9
高校同窓会創立 60 周年記念式典・祝賀会	10
教育実習	10
アーチェリー部全国出場	10
高城チャレンジ	11
今後の主な行事予定	11

オリジナル鉄板料理開発プロジェクト

広島東商工会青年部と広島市安芸区・東区地域起こし推進課、本大学の「産官学」が連携し、地域おこしを目的として、本年度から地域資源を活かしたオリジナル鉄板料理を開発することにいたしました。

プロジェクトでは、地域食材の活用と本大学の学生たちの若い感性によるアイデアを基にレシピ案を絞り込み、大学5号館の食品加工実習室等で開発するとともに、アンケート用紙や投票BOXのデザインと試作・宣伝方法、web・のぼり製作などにも協力することにしました。学生たちの活動として、5月から7月にかけて、株式会社平山友美フードトータルプランニングの平山先生と本大学食農バイオ・リサイクル学科の宮本博子先生のアドバイスを受けながら、商工会青年部からの提案や、学生たちから提案された8つのレシピ案から3つを絞り込み、食品加工実習室やものづくりセンターに設置した仮設の大型鉄板を利用して、試作と改良を重ねてきました。

その結果、次のような3種類のオリジナル鉄板料理を開発しました。



学生によるプレゼン

- ① 海鮮塩焼きそば
- ② 焼きゲッティ
- ③ カリー焼きそば

また、開発に当たっては、商工会青年部の皆さんとの連携も

深まり、学生たちには大変よい刺激と経験になったものと思われれます。

開発したオリジナル鉄板料理は、矢野産業祭、サマーフェスティバル in ほことり、ひろしまフードフェスティバル、安芸安芸まつり等の各種イベントにおいて販売する予定です。

①～③の3種を一皿に盛り付けて販売し、一番美味しかったと思われるものに、使用した割り箸で一票を投じていただくことを考えています。

この投票結果もふまえ、さらに改良を加えてオリジナル鉄板料理を完成させるとともに、今後は地域で販売することで地域おこしの一助とする計画です。



キックオフセミナーの様子。商品開発から宣伝まで、各学科の学生が専門を活かすべく集結

地域と大学が連携、ご当地食材を活かしたメニューを考案



オリジナルメニュー試作会

学長就任にあたって

すもぎ つねたか
李木 経孝

なければなりません。直し、教育効果の向上につなげる改革を進めなければなりません。

皆様のご理解とより一層のご協力をよろしくお願いいたします。

大学の現状における課題は、平成25年度改組の3年目に入り、これまでの教育研究の成果や学生の活性化などの魅力を如何に有効に外部発信していくかの工夫が必要です。また、教育課程やその実施方法などを真摯に見直し、教育効果の向上につなげる改革を進めなければなりません。

大学や短大の評価は、入口の「学生確保」、内部の「教育研究」、出口の「就職」のトータルで決まるものと肝に銘じて、本学の再生に向けて尽力する所存です。

佐々木健前学長に代わり、学長職を拝命いたしました。たいへん厳しい状況の中で、大学及び短大の「かじ取り」を担うことになり、これまでも増して身の引き締まる思いを感じております。

短期大学部においては、実践力と社会人基礎力をバランス良く兼ね備えた人材の育成を進めるとともに、大学との連携を深めることにより、専門学校との差別化を図る必要があります。



安芸太田町との地域連携 —地域社会の発展と学術振興へ、協定結ぶ—

6月25日、安芸太田町（広島県山県郡）と本大学・短大との間で地域連携協定が締結され、安芸太田町役場にて調印式が行われ、安芸太田町の小坂眞治町長と本大学の李木学長代行が協定書を交わしました。その後意見交換会を経て大学関係者は筒賀地区に移動。住民グループ「いにびちゅ会」会長の河野司さんなどの案内で井仁棚田を見学しました。



小坂安芸太田町長と協定書を取り交わした李木学長代行

豊かな自然と里の恵みに育まれた癒しの町



いにびちゅ会の河野会長（左2）らと大学関係者の懇談

広島県北西部に位置する安芸太田町は、恐羅漢山や三段峡といった豊かな自然に恵まれ、平成24年には広島県初の森林セラピー基地に認定されました。また、筒賀地区の傾斜地に沿って作られた「井仁の棚田」は農林水産省が認定する「棚田百選」に広島県で唯一選ばれています。地域資源を活用し、官民一体で町の活性化に取り組んでいます。

平成24年から続く地域協力、さらに一步先へ

安芸太田町と本大学との地域連携活動は、平成24年度に始まりました。情報デザイン学科が同町の公用車ラッピングデザインに携わり、特産品の一つである芋焼酎「恐羅漢」のラベルも学生制作のデザインが採用されました。また、本大学の佐々木健学長（当時）が井仁棚田の源流水を分析した結果、屋久島縄文水などにも匹敵する良質な名水と判明。平成26年6月の名水鑑定書交付式に合わせ、佐々木学長と学生らが棚田の源流を視察しました。さらに、井仁棚田の用水路保全活動には現代社会学科の学生が参加し、用水路や防獣フェンスの清掃を行い、この5月には田植えも体験するなど、町と大学の交流は広がりを見せています。



河野会長の案内で井仁棚田を見学

地域連携協定締結を機に、これまでの活動をさらに発展させ、大学の学術的知見を町の活性化に生かし、地域社会の発展と学術振興に協力して取り組んでいきます。具体的には井仁棚田の用水路保全活動、井仁棚田米などの特産品ラベル・パッケージデザイン、棚田米を用いたライスミルク他特産品開発、また学生による棚田の維持・保全活動などの社会貢献を進めます。

工学部長就任にあたって



この度、李木工学部長が学長に就任されたことを受けまして、新たに工学部長になりました酒井恒です。生産工学科および旧電気システム専攻の主任を3年間続けてきましたが、これらの役職に加え、さらに、工学部長および大学院工学研究科生産創成工学専攻主任も兼任することになりました。今回、食農バイオ・リサイクル学科の募集停止など、学内外に多くの課題があり、重圧で身が引き締まる思いです。力不足とは思いますが、何とかこの難局をがんばりたいと思います。皆様の協力をお願いします。

さか い ひさし
酒井 恒

工学研究科長就任にあたって



この度、7月1日付で大学院工学研究科長を拝命いたしました。年度の途中でございりますが、職責を果たすべく努力いたしますので、どうぞよろしくお願いたします。大学院において、直近および中・長期的な将来の課題が山積しております。工学研究科において、学部教育とも連動して教育・研究の充実を図り、進学する学生が増加するよう魅力ある大学院にするよう努力する所存です。皆様のご支援、ご協力をよろしくお願申し上げます。

しんかわ ひでのり
新川 英典



左からチャリン学部長、山本さん、古川さん、フィジット先生

大学院物質工学専攻修士課程1年の山本平さん(広島県立工業高校出身)と食農バイオ・リサイクル学科

3年の古川雄也さん(島根県立平田高校出身)が、3月2日から約1ヶ月間タイ国立チェンマイ大学農業産業学部へ実験留学に行きました。以下は彼らの体験報告です(詳細は本学ホームページのブログ掲載)。

今回僕たちは、光合成細菌による重金属除去と酵母菌によるβカロチンの生産について共同で実験を行いました。タイでの実験方法を教わり、反対に日本での方法を教える方式でしたのでお互いに得る物が多かったと思います。また、土日には観光などにも連れて行っていただき、とても充実した1ヶ月でした。英語での

チェンマイ大学実験留学

基本的な日常会話はもちろん大切ですが、今回は実験を行うので専門用語に苦しみました。今後英語でのコミュニケーションを頑張っていきたいと思っています。研究室の方々とはお互いの母国語を教えあうなどしながらとても有意義なものでした。

今回の実験留学では実験そのものの技術はもちろんですが、色々な作業を円滑に行う為には仕事以外でのコミュニケーションも非常に大切な事が分かりました。今後も、このようなグローバル化のプログラムを続けて欲しいと思います。1ヶ月という短い間でしたがとても良い経験をすることができました。また機会があれば是非行きたいと思います。



研究室の方々と古川さん、山本さん

CAD 試験資格取得を力強くサポート

6月21日、CAD利用技術者試験(1級と2級)が認定会場である本大学のCAD演習室で行われました。生産工学科



対策講座で真剣に取り組む参加者たち

では学生のCAD利用技術者資格取得を積極的に支援し、試験の約1ヶ月前から中村格芳准教授による受験対策講座を10回にわたって開講しました。この講座は放課後の時間を利用したので、参加者の皆さんは毎回遅くまで

よく頑張りました。時間の都合により、15名の受講者のうち6回以上出席できたのは10名で、このうちの7名が見事に合格しました。

合格した皆さん、おめでとうございます。また今回残念ながら僅差で不合格となった皆さんは、ぜひもう一頑張りして次回で合格しましょう。



合格を記念して、はいチーズ

PICK UP!

「電験三種」に挑戦する学生たち

種電気主任技術者」の講習会を開いています。一般社会人が対象なので夜間の授業となりますが、現在本学の在学学生・卒業生が挑戦しております。内訳は3年生1名、4年生2名、卒業生5名等です。

学生の中には人一倍意欲的な者もあり、普段の授業の空き時間にも私の研究室に来て勉強します。なるべくたくさんの問題を解くように助言しています。この国家資格は年々難しくなっており、本学学生も苦労しているようです。

8年間続いたこの「電験三種」ボランティアも本年度で最後となります。そろそろ後輩に譲る時期が来たようです。



「電験三種」合格を目指し、研究室で勉強する学生

本学地域連携センターでは、サテライトキャンパスを広島を使用して、国家資格「第三

情報文化学部

“ちいさな”平和コンテスト



「ちいさな」平和コンテスト」ポスター

今年も“ちいさな”平和コンテストが開催されました。原爆や戦争の記憶が次第に薄れていく中、10年前の被爆60周年を機に「情報デザイン」の視点から何かができないかという動機から始めたこのコンテストも第11回目を迎えました。

今年は高校生から実際に戦争を体験された方まで、様々な方々から160を超える作品が寄せられました。これらの作品は8月1日から8

月31日まで、広島駅地下広場の本学展示ブースにて、マルチスクリーンとプロジェクタを使って展示いたしました。

今年は原爆投下から70年が経過します。今回投稿いただいた方々、ならびに広島駅地下広場で作品をご覧いただいた皆様にとって、平和について考えるきっかけになれば幸いです。

なお、今回の受賞作品は本コンテストのWebサイト(PCサイト：<http://heiwa.id.hkg.ac.jp/> 携帯サイト：<http://heiwa.id.hkg.ac.jp/k/>)にて9月中旬ごろ公開予定です。

被爆70周年企画映像制作

今回の活動及び完成作は中国新聞、広島テレビからの取材もありました。映像は広島駅地下広場の本学



広島テレビの取材の様子

展示ブースとホームページからご覧いただけます。被爆証言者様、伝承者様、広島平和推進課の関係者様、外部協力者様にこの場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。

被爆70周年を迎え、学生らが映像作品を制作しました。自主活動として専門授業で学んだ知識などの能力を活かし、地域との連携を試みました。制作期間は企画まで含め半年です。大学院生を中心に情報デザイン学科3・4年生らが毎週水曜日の昼休みに集まり、定期的に打ち合わせをしながら制作に取り組みました。被爆および復興の記憶を被爆者と被爆伝承者の方々からお伺いすることで、「被爆地 HIROSHIMA が持ち続けてきた平和への思い」を知り、情報デザインを勉強している立場として次代につなげることをテーマに制作しました。

本大学で「Google I/O 報告会 - DevFest2015 -」を開催



ITの先端技術が紹介されたグーグル報告会

6月20日、「Google I/O 報告会」がマルチビジョン室で開催され、社会人に交じって情報デザイン学科の学生5名も参加し、新しいIT技術に触れました。この報告会は、5月にアメリカで開催されたGoogle I/Oに参加した開発

者たちが全国8ヶ所をネットワークでつないで行う技術解説セミナーで、本大学は中国地区会場となりました。内容は、OS、Cloud、画面デザインなど多岐にわたり、本学会会場からは株式会社トップゲートの小川信一さんが届いたメールを自動的に解析して旅行日程などを通知してくれる機能などを紹介しました。なお、本学会会場のポスターは3名の学生によって制作されました。

PICK UP!

認知症サポーター養成講座

現代社会学科一年生の初年次セミナーにおいて、認知症サポーター養成講座を行いました。広島市瀬野川東地域包括支援センターのご協力のもと、グループホーム白光の家の新居佳子さんから、認知症の原因や症状、接し方についてお話を伺いました。



原因、症状、対応法など、認知症への理解を深めた

実際に認知症の方への対応をどのようにすればよいのかを学んでもらうために、学生にロールプレイを体験してもらいました。家で財布を無くした事例やコンビニでの対応といった身近な事例で、接し方について学びました。学生ははじめはどのような点に注意して接したらよいのか手探り状態でしたが、認知症の方の言ったこと、行動を否定しないでまずは受け止めること、暖かな気持ちで接することの大切さを学びました。この講義を受講し、1年生は認知症サポーターとして認められました。認知症に関する知識に基づいて、日常生活の様々な場面でお年寄りの力になってくれることを願っています。



認知症の方への対応をロールプレイで体験

被爆70年、平和への祈りが形に

総合教育センター

総合教育センター作成のテキストなどを使用しながら、大学の社会における位置づけや仕組み・用語、本学院の歴史や建学の精神、本学院の特徴や教育理念などを学びました。



『大学生の学修と生活』

「初年次セミナー」3年目のスタート

科目「初年次セミナー」

Ⅱ（前・後期）が3年目のスタートを切りました。総合教育センター・各学科・事務部による全学的連携のもと、大学生活への円滑な移行を支援する科目です。

前期は初回の学科別ガイダンスのあと、第4週までは全学科合同セミナー形式で実施しました。第2・3週「大学生の学修と生活」では、総合教育センター作成のテキストなどを使用しながら、大学の社会における位置づけや仕組み・用語、本学院の歴史や建学の精神、本学院の特徴や教育理念などを学びました。

また第4週「大学生と人権」では、広島人権擁護委員協議会から講師を迎え、デートDVをテーマとする特別授業を実施し、大学生として必要な人権に関する知識・認識を身につけました。

第5週からは学科別セミナー形式で実施され、所属学科で学び始めるうえで必要な自覚を身につけるための授業を行っています。

なお後期には、ガッツ石松客員教授による特別授業や、地域講師の講話・フィールドワークなどによる地域学修シリーズ「せのかわ学」も予定しています。



「大学生と人権」講演

PICK UP!

女性セミナー（第1回～第3回）



お菓子づくり

お蔭様で今年度3年目を迎える女性セミナーでは、前期に「食」をテーマに3回の講座を企画しました。第1回目は「お菓子づくり」で、レストラン「ルイズ」のオーナーシェフ波志氏にお菓子の作り方をご指導いただきました。繊細なお菓子作りに挑戦する学生は、真剣な表情で材料を正確に計量し、チョコレートの湯せんや卵の泡立て方などきめ細かい指導を受けて、みごとに美味しいチョコレートムースとレモンスフレを完成させました。その後もチーズとバナナを使ったお菓子を作り、楽しい講座になりました。

第1回目は「お菓子づくり」で、レストラン「ルイズ」のオーナーシェフ波志氏にお菓子の作り方をご指導いただきました。繊細なお菓子作りに挑戦する学生は、真剣な表情で材料を正確に計量し、チョコレートの湯せんや卵の泡立て方などきめ細かい指導を受けて、みごとに美味しいチョコレートムースとレモンスフレを完成させました。その後もチーズとバナナを使ったお菓子を作り、楽しい講座になりました。

第1回目は「お菓子づくり」で、レストラン「ルイズ」のオーナーシェフ波志氏にお菓子の作り方をご指導いただきました。繊細なお菓子作りに挑戦する学生は、真剣な表情で材料を正確に計量し、チョコレートの湯せんや卵の泡立て方などきめ細かい指導を受けて、みごとに美味しいチョコレートムースとレモンスフレを完成させました。その後もチーズとバナナを使ったお菓子を作り、楽しい講座になりました。



料理づくり

「料理づくり」という講師である上野氏のお言葉に緊張も少しほぐれ、徐々にスムーズに料理を口に運べるようになり、デザートをいただく頃には会話も弾んでいました。この講座では食事のマナーだけでなく、その雰囲気にも馴染み周囲の方への気遣いも大切だということも学びました。就職後、学生さんはきっとこの経験を活かせることと思います。

この講座では食事のマナーだけでなく、その雰囲気にも馴染み周囲の方への気遣いも大切だということも学びました。就職後、学生さんはきっとこの経験を活かせることと思います。

第3回目の「料理づくり」は、第1回目にお世話になった波志氏に再度依頼して、フレンチの魚料理をメインに旬のジャガイモを使った料理4品を教えてくださいました。日頃、家庭でほとんど料理しない学生さんたちは、ジャガイモのスライスの仕方、パイ貝の切り方、玉ねぎの炒め方などを学ぶことができました。さらに「料理を均一に仕上げるコツは、材料を同じ大きさ、同じ厚さに揃えて切ること」だということも教えてくださいました。調理実習後は皆さんで美味しくいただきました。



テーブルマナー講座

第2回目のリーガロイヤルホテル広島での「テーブルマナー講座」では、皆さん最初は緊張してナイフとフォークの使い方がぎこちなかったのですが、「マナーはルールではなく、思いやりの気持

短期大学部

クルマの技術、学び、教えて深める

就職支援授業



高級外国車を扱う(株)ヤナセの近藤さんによる講演

毎年入学当初から就職支援授業(クルマの整備業)を行っています。最初は自動車整備業や自動車整備士の仕事の基本を教員が教え、後に卒

業生を招いた講演を行います。「学生と社会人との違い」「何故今の会社に入社したか」「仕事をして良かったことやつらかったこと」など、現場ならではのお話を伺います。今年度は計4名が学生の質問に応える形式で講演しました。それぞれ「大型車」「高級外国車」「人気の乗用車」を扱う会社で、変化に富む内容は夏休みから始まる「個別企業研究」の参考になったと学生から好評でした。

また、休憩時間にもOBと学生が真剣に話をしており、生の話を聞くことで学生から社会人へのステップにつながったようでした。

1年生の夏休み期間中の「個別企業研究」に向けて「卒業生が語る後輩へのアドバイス」

講師のメンバー

三菱ふそうトラック・バス(株)	坪山 直樹さん	平成20年3月卒
(株)ヤナセ 中国営業本部	近藤 勇氣さん	平成17年3月卒
広島トヨペット(株)	児玉 大地さん 望月 研生さん	平成27年3月卒

水無月祭

6月6日、校友会主催の水無月祭(ソフトバレーボール大会)と学生生活指導委員会主催の学生交流会(バーベキュー)が行われました。大会は、専攻科と教職員チームを含めた5チームが参加しました。1試合3セットの総当たりの試合形式で進行了。終盤になるにつれて熱戦となり、最後の試合で勝ち数が多いチーム同士が対戦となりました。参加した学生たちが見守る中、予想に反して教職員チームが優勝となりました。

花岡清志郎校友会会長(自動車工業科2年 山口県立岩国工業高校出身)は、「とても白熱したバレーができて、汗がかけて、みんなが楽しめたようでよかったです。準備が不十分な部分もありましたが、先生方が手伝って

くれたのでスムーズに大会を進行できました」と話してくれました。

大会終了後は、バーベキューを楽しみました。ここから参加する学生も多く大変賑わいました。「みんなで片付までしっかりとやって、参加者全員が楽しく面白い日になったと思います」と花岡会長は当日を振り返り語ってくれました。



ソフトバレー大会では師弟による熱い戦いも繰り広げられた

PICK UP!

オープンキャンパス

6月21日、第1回オープンキャンパスを開催しました。時節柄天候が心配されましたがさわやかな天候に恵まれ、46名の生徒・保護者に参加していただきました。「先生方の教え方がとても分かりやすかった」「入学させたい意欲が増しました」など多くのありがたい意見や感想をいただきました。

今年度も「エンジンの仕組み」「小型エンジンの分解組立」「シャシダイナモの体験」をメインイベントとして、参加者が実際に見たり触れたりすることによって、興味や関心と呼び覚ますことを意図した体験型のイベントを心がけました。

今回特徴的な点は保護者の参加が20名と約半数を占めたことです。これは本短大のみならず、他大学においても同様の傾向にあるようです。今後は保護者が大学に求める「教育環境・現役学生の状況・卒業生の活躍状況等」についてもより説得力のある説明が必要かと思ひます。



エンジン組み立てなど体験できるイベントも好評だった

高校から発信

遠足

総合学科1年
井石彩友
(府中学校出身)

私たち総合学科1年生は4クラスとも、備北丘陵公園に行きました。入学して間もなくのことだったので、クラスで話をしたことがない人もたくさんいました。だから正直なところ、「オリエンテーリングしても仲良くなれないだろうな」と思っていました。しかし、自然あふれる芝生の上でクラスの皆と活動したことが理由かわかりませんが、遠足が終わっ

たときのクラスの雰囲気は、最初と違ってとても居心地の良いものでした。3年間で一度の最高の遠足になりました。



5月1日、全クラスが7方向から目的地を選び遠足を実施した

行先一覧

広島	宮島
広島	尾道
広島	三滝少年自然の家
広島	備北丘陵公園
島根	アクアス水族館
山口	錦帯橋
愛媛	大三島

集団合宿

普通科1年 北村 璃乙 (大州中学校出身)



集団行動の練習

私はこの3日間、風邪をひいてしまい研修でしっかり声を出せず、さらに偏った食事のためにおなかの調子を崩してしまいました。そのため、各研修を楽しむことができず残念に思いました。普段から食事バランスに気を付け、適度に運動して自己管理をすべきだと理解することができました。

そして二つ目は、本気で真面目に頑張ることは決して格好悪いことではないということです。最近「真面目がダサい」というような風潮がありますが、今回の合宿で

私がこの合宿を通じて得ることができたことは、三つあります。

まず一つ目は、体調管理の大切さを理解したことです。

私は、誰に何と言われようと自分は自分だと考え、真面目に取り組みました。その結果、明確な反省点と自分を誉めるべき点がわかり、とてもよいものを得ることができました。

最後に三つ目は、当たり前とはどういうことを理解したことです。例えば人の話を聞くときはその人の方を向く、といったようなことが当たり前のことだとわかっているけど、本当に実行しないと当たり前だといえませんが、本来なら当たり前の動作でも、先生に指摘される前に行動し、本物の当たり前に行きたいと思います。

今後も合宿で得たものを学校生活で活かしていきたいです。



皆の協力が鍵となるカッター訓練

PICK UP!



浴衣姿も華やかな盆踊り



クラス対抗リレーは劇的な幕切れ

クラス全員が一つになるとはまさにこういふことなんだな、と私は思い返すたびにそのように感じる。

6組には1つくやしかったことがあった。それは1年前の体育祭でのクラス対抗リレーで、決勝までは進んだが、惜しくも2位で終わったことである。今回の体育祭はリベンジ戦というわけで、男子のメンバーは特に、体育祭前からとにかく燃えていたと思う。少し意気込みすぎているように感じて、私は心配していたがそのまま当日となった。その当日、男子は予選を2位で通過した。そのあと盆踊りが終わり、ついに決勝。始まった瞬間から、クラス全員が大きな声で応援を始めた。私も精一杯大きな声を出した。リレーは一人目のスタートが成功し先頭でバトンをつないだが、アンカーまで少しずつ差が縮まっていった。アンカー勝負では私は応援しながら祈るしかなかったが、アンカーは最後の直線何とかギリギリで1位でゴールしたのだ。その瞬間クラス全員が大きな声で喜び、私は不覚にも涙が出そうになった。私はこの時、全員の心が一つになったと思う。

最後の体育祭は、私が今まで体験した中で一番素敵なものであり、忘れられない思い出の一つとなるだろう。

体育祭

普通科3年 橋本 結 (安佐南中学校出身)

総合学科の取り組み

総合学科1年生対象「大学訪問会」

6月26日および7月3日、総合学科1年生は「産業社会と人間」の授業において、生徒たちの「進路意識の定着」「職業観の形成」を目的として、県内の私立7大学を訪問しました。



広島国際学院大学でのオリエンテーション



ハイテク・リサーチ・センターを見学

訪問した7大学

広島国際学院大学
広島修道大学
広島文化学園大学
広島国際大学
比治山大学
広島経済大学
広島女学院大学

パンフレットができました



本年度のパンフレット(入学案内)が完成!

吹奏楽部第27回定期演奏会を終えて ～6月21日広島文化学園H B Gホール～

今年も多くのの方々に支えられ、定期演奏会を開催することができました。ありがとうございました。

第1部ではブッチーニ作曲の歌劇「トゥーランドット」をはじめ、クラシックを中心に演奏しました。

2部の幕が上がると、会場からはワッツという、ため息とも歓声ともとれる声が上がりました。青い光とスモークで演奏をしている生徒たちはまるで雲の上にいるようでした。一気にファンタジーの世界へと引き込まれていきました。会場が和んだのは2曲目のブレイメンの音楽隊に出でくる動物を司会の桂さんが会場のみなさんに尋ねたときです。「ロバ」、「ニワトリ」、「ネコ」、「イヌ」とかわいらしい声で返事が返ってきました。

今回の演奏会で特徴的なのは、生徒がさまざまな趣向を凝らしたこと



ここは雲の上? 巧みな演出が聴衆をファンタジーの世界に誘う



シャボン玉が舞う中でタップダンスを披露

です。「美女と野獣メドレー」でた「スーパーカリフラジリスティッは、普通科2年の阪本晴奈さん(両クエクスピアリドーシヤス)。

城中学校出身)がバレエで花を添えてくれました。「ひみつのアッコちゃん」、「鉄腕アトム」を歌ったアンコールの「J・POPメドレー」。

「リトル・マーメイド・メドレー」では家庭科の吉野先生の作つてくださった衣装を着て国際学院ならではのタップダンスを披露しました。まるで、海の中にいるような空気の泡を模したシャボン玉が会場いっぱいに舞いました。これまでの演奏会で初めての演出で楽しいステージでした。映画、魔法の宅急便のエンディング・テーマ「やさしさに包まれたなら」を全員の合唱と手拍子とプラスチックのカップを使ったパフォーマンスも楽しかったです。2部最後の曲は、全員でパフォーマンスをし

今後とも吹奏楽部をどうぞよろしく
お願いいたします。

レポート

「被爆体験を知る」1年生 LHR

高校では約30年間、1年生全クラスを対象として、被爆体験継承授業を行いました。本年も6月25日、15クラスすべてに被爆者の方に来ていただき、被爆者の方々の体験・思いを生徒たちに伝えていただきました。



原爆の惨禍を学び、平和への思いを受け継ぐ



吹奏楽部による演奏

皆様こんにちは。学友会文化局局长の宮本諒平です。

6月18日、私達文化局員と本大学の文化系サークルによる「第27回学外展 晩成～確実な一歩～」を安芸区民文化センターにて開催しました。

学外展では、写真部、ボランティア部、表千家流茶道部、美術研究愛好会などの5サークルによる展示が行われました。今年からは入口に風船でゲートを作ってみました。ヘリウムガスで風船を膨らまし一個ずつ紐に付け完成したものが隣の写真になります。

学外展の展示内容は一階のギャラリーではボランティア部のバルーンアートや美術研究愛好会の作品や写真部の展示など、個性的な展示や活動が行われました。

また三階の特設会場では映画研究愛好会（TOYB

第27回学外展

学友会文化局局长
(情報デザイン学科2年) 宮本諒平
日影館高校出身

OX)による自主作成映画の上映や茶道部によるお茶会や、テーブルゲーム愛好会によるテーブルゲーム体験、競技麻雀部の麻雀大会が行われました。普段触れることのない茶道や麻雀などについて知る機会となれば光栄です。

「定期演奏会」では、二階のスタジオで吹奏楽とMusic Planning Agency(MPA)所属の2バンドによる演奏が行われました。また、スタジオでの音響やMCとして放送通信研究会(VOD)が担当しました。両サークルとも限られた時間の中で素晴らしい演奏を披露してくれました。

また、文化局では10月17～18日に大学で行われる高城祭にて文化系サークルの展示(文化展)を中野キャンパス10号館にて行います。面白い企画を考案中ですので、ご期待ください。



会場入り口を風船で飾り付け、カラフルなゲートを作った

PICK UP!

留学生交流会

ちん 揚 (生産工学科1年 中国・黒龍江省出身)

部の先生が出席しました。12時ごろから出席者が続々と入場してきました。司会者の王浩さん(生産工学科1年 中国遼寧省出身)、張文歡さん(現代社会学科1年 同上)による開会祝辞の後、おいしい中華料理をいただきながら歓談しました。料理は学生や先生方に大好評でした。アトラクションとして腕相撲大会を行いました。男女各5人ずつを選出し、勝利した人数の多さを競う団体戦でした。力の拮抗だけでなく、団体精神の体現でもあります。白熱した攻防もあれば爆笑を誘う珍プレーもあり、交流会の雰囲気も盛り上がりは頂点に達しました。最後は留学生チームの勝利で終わり、記念品が贈られました。みんなの心の中で勝負は重要ではありません。必要なのは、学生たちの友情と信頼関係ができることです。これからの4年間、みんなの協力とよい勉強の環境を作れると思います。



腕相撲大会では女子に成りすまし出場する強者?に大爆笑。珍プレーあり白熱の攻防あり、最高に盛り上がった



留学生、日本人学生、教員が大勢集まった交流会。テーブルにはおいしい中華料理が並び参加者に大好評だった

6月23日、年に一度の留学生交流会が学生支援課の主催で行われました。留学生交流会は初めて日本の大学に入った留学生の不安と緊張を和らげ、大学の生活に慣れるよう支援するとともに、多くの日本人の学生と交流して、日本文化を学び、もっと良く勉強できる環境を目指しています。

高校同窓会 創立60周年記念式典・祝賀会



60周年を寿ぐ雅楽演奏

をはじめ、鶴素直理事長様、森崎恒夫学校長様と多くの御来賓をお迎えし、同窓会員を含め、約300名近い出席者が参会いたしました。

周年行事では、雅正会（坂支部幹事長 林昭治氏）による雅楽演奏、同窓会会員でもある歌手の加納ひろし氏によるアトラクションが執り行われました。また、何よ

6月27日、ホテルグランヴィア広島において、「創立60周年記念行事」を開催いたしました。式典・祝賀会には、山岡寛次海田町長様

りも皆様の胸に深く刻まれたのは、恩師や旧友との会話です。生徒時代の良くも悪くも様々な体験をした思い出や、先生方との思い出に、本当に華が開いていました。そして、閉会後の皆様が笑顔で退席される姿を見て、役員ならびに事務局一同とても充足感を得ることができました。

高校同窓会は、学園の発展と共に70、80と歳を重ねてまいりたいと思います。引き続き、ご支援をお願いいたします。



歌手の加納ひろしさんのライブに同窓会員も大盛り上がり

教育実習 — 教師をめざし奮闘した3週間 —



藤屋さん(中央)のほか、鈴木智裕さん(左)と藤仙克信さん(いずれも総合工学科4年)も母校で教育実習を行った

毎年各地の学校で行われる教育実習に、本大学の学生も多数参加しています。そのうち系列高校の教育実習には、今年3人が挑戦しました。学生の感想を紹介します。

僕たちは3週間、広島国際学院高等学校に教育実習でお世話になりました。実習期間では教師という立場で物事を考えるという貴重な体験をすることができたとともに、仕事に対する自分の意識の低さを気付かされる毎日でした。

正直、授業がうまくできなかつたり、自分のやるべき

ことが思った通りにできなかつたりと体力的にも、精神的にも厳しく、「こんな日々を3週間も続けられるのか…」と何度も考えました。しかし、ホームルームや体育祭などを通して生徒と触れ合うことで教師としての楽しさというものを感じることができ、「やっぱり教師っていいな。自分も教師になりたい」と改めて思うことができました。

高等学校の先生方にはたくさんのご迷惑をおかけしたことと思いますが、先生方の指導のおかげで、とても良い実習期間を送ることができました。この実習で経験したことを活かして、良い先生になれるよう励んでいこうと思います。(藤屋 昌駿 総合工学科4年 広島国際学院高校出身)

PICK UP!

アーチェリー部全国出場

りたいと思います。

試合後は「もっと高い点数が出せたら、もっと高い順位に行けたな」と思いました。個人のレベルを上げ、女子部員を増やし、また全日本王座に出場できるよう頑張りたいと思います。

試合当日は周りを気にせず、自分やメンバーの調子などに集中するようにしていました。緊張してうまくできなくてもすぐ切り替えて常心的の中心を当てる自信を持つようにしました。そのおかげか調子が下がらず目標としていた点数を超えることができました。でも全国大会のレベルは高く、上位入賞を果たすには足りませんでした。

試合前は団体練習はもちろん個人練習を意識し、点数を気にせず自分の射形を忘れずに射つことを意識しました。また、全国大会に出場するのが初めての選手が多く、場の空気にのまれないよう事前に先輩方などに話を聞いて緊張しないよう対策をたてました。

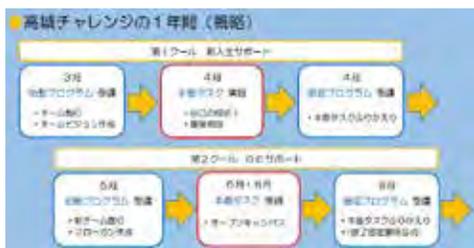
校出身)の感想です。

村千晶さん(食農バイオ・リサイクル学科3年 瀬摩高校出身)の感想です。

6月20〜21日、静岡県掛川市のヤマハリゾートで行われた第50回全日本学生アーチェリー女子王座決定戦に本大学女子チームが16年ぶりで出場しました。以下は西



左から岡崎芽衣選手(食農バイオ・リサイクル学科3年・芸芸南高校出身)・木村早紀選手(同2年・西条農業高校出身)・石田明日香コーチ(本大学OG)と西村選手



今年度、学長が主宰する本大学サポーター養成プロジェクト「高城チャレンジ」が本格始動しました。高城チャレンジは、メンバーとなった学生が、さまざまな大学イベントにおける活動を通じて、企画・実践・検証する過程や、合意形成する過程を体験しながら、それぞれの個性・特長に応じて、実行力・傾聴力・課題解決力・リーダーシップといった能力を身につけることを目的としています。

1年間の活動計画は、新入生サポートなどを行う第1クールと、オープンキャンパス(O.C.)サポートなどを行う第2クールに分かれます。昨年度末から1・2年生(現2・3年生)約50名が応募登録し、第1クールの活動を終了しました。第2クールからは新1年生40名を加え、現在、計96名がメンバー登録しています。

●第1クール ～新入生サポート～



第1クール始動プログラム・チームビジョンを決める話し合い

昨年度3月4日の第1クール始動プログラムでは、メンバーの相互理解を深め、

次年度春に迎える新入生をサポートするチーム創りを行いました。全体と学科ごとの世話役も決め、チームビジョン「主役は新入生～私たちが笑顔でサポートします～」を決定しました。そして、今年度4月3～4日の本番タスクでは、「自己の探求」の各クラスに学生スタッフとして入り、講師や新入生を

サポートしました。また4月8～14日の履修登録期間中は、新入生のための履修相談ブースも学生談話室に開設しました。これら本番タスクを終え、4月25



第1クール本番タスク・『自己の探求』で新入生をサポート

日には振返プログラムを実施し、活動を通じてみずから考えたことをチーム内でも共有しました。

●第2クール ～O.C.サポート～



第2クール始動プログラム・1年生メンバーも新加入

第2クールは、1年生の新メンバーを加え、5月23～24日に始動プログラムを実施しました。まずメンバー同士のきずなを深めながら、O.C.来場者を迎えるチームを結成しました。また、グループで協力・役割分担してミッションを達成するプログラムなども

行いました。さらに、チーム内スローガン「自信を持ち高校生の憧れる存在に!!」を策定し、具体的な行動規範「あいさつの徹底」も決めました。そして、6月28日には、第1回O.C.のサポート活動をおこないました。前日の清掃・設営作業から始まり、当日は、来場者を案内・誘導するキャンパス・アドバイザーとして、また各学科の特色を伝える学科展示スタッフとして活動しました。この経験もふまえ、残る2回の本番タスク、すなわち8月開催



第2クール本番タスク・オープンキャンパスCA

の第2・3回O.C.のサポート活動に臨みました。

本大学はこれまでも、学生スタッフの協力をえながら、さまざまなイベントを実施してきました。主体的に活動する高城チャレンジメンバーの活躍によって、さらに学生目線の大学イベントに変わることを期待しています。また、この体験を通じて、学生の個性・特長が大きく育つこと、すなわち高城チャレンジの目的「大学を変える挑戦、自分が変わる挑戦」が実現してほしいと願っています。

今後の主な行事予定
(赤字は公開行事です)

学院	創立記念日(11/1)
	国学大運動会(9/5) 後期ガイダンス(大9/17~18 短1年9/10 2年9/11) 授業開始(大9/19 短9/14)
大学・短大	オープンキャンパス(短9/20) 高城祭(10/17~18) 保護者懇談会(短10/31) 推薦入試(大11/14 短11/13)
	冬季休業(大12/24~1/7 短12/24~1/5)
高校	始業式(9/1) オープンスクール(9/20~21) 修学旅行(2年10/15~19) 文化祭(11/22) 終業式(12/19)

この広報誌及び第三者認証評価結果はホームページでご覧になれます。 <http://hkg.ac.jp>

高校生以上の方に図書館を開放しています。詳細は図書館までお問い合わせください。TEL:082-820-2536

発行/学校法人 広島国際学院 法人本部 総務課
編集協力/末房守、サイラクシミ、小川義弘(エディトリアルサポート学生)
住所: 〒739-0321 広島市安芸区中野六丁目20-1 電話: (082) 820-2345

兵庫県廣野ゴルフ倶楽部で開催されたゴルフの第100回日本アマチュア選手権大会において、広島国際学院高校普通科2年の金谷拓実さんが初優勝しました。

7月13日に行われた決勝では大利根中3年の中島啓太さん(埼玉県)と対戦。10アンド9で中島さんを破り、王座に輝きました。広島県出身選手としては1990年の倉本泰信さん以来の栄誉となります。金谷さんは決勝当日で17歳51日。優勝に加え、100回目の記念大会を最年少記録更新で飾る快挙を成し遂げました。

高校選手権と日本ジュニアでも優勝したい —金谷拓実さん—



第100回日本アマチュアゴルフ選手権に史上最年少で優勝し、表彰を受ける金谷さん

優勝した時もまさか自分が勝てるとは思わず実感がわかなかったといいます。ただ「周りの方々に『おめでとう』と言われると、優勝したことを改めて感じます」と答えていました。大会では一つでもいい順位で挙げられるように考え、冷静に自分のプレーをしようと心がけたということです。

普段の授業もある中、練習に試合にと忙しい毎日をこなす金谷さん。メンタル、フィジカル、集中力をどのように維持しているのでしょうか。「常に、上手くなるためにはどうしたらいいかを考えるようにしています。集中力を高めるため、ランニングで自分をぎりぎりまで追い込みます」。

金谷さんは今後の目標について、夏の高校選手権と日本ジュニアでの優勝と語り、「勝負どころのパッティングを見てほしい」と締めくくりました。

優勝を原動力に、大きな飛躍を —橋田源太郎監督—

金谷さんを指導する高校ゴルフ部・橋田源太郎監督は、優勝が決まった瞬間の気持ちについて「心地よい疲労感、やっと終わったと思いました。流れは完全に金谷に向いていたため、安心して観戦できましたが、27ホール目の優勝が決まった瞬間、天を仰ぎ目に熱いものを感じました」と語りました。しかし歴代最年少優勝、また広島県勢では1990年以來の快挙ということには、優勝できた年齢がたまたま17歳と51日ただただ何も感じなかったとのこと。決勝戦は相手に反撃のチャンスを与えない試合運びだったと橋田監督。「本当の決勝戦は準決勝の石徳俊樹君(広島国際、大阪学院大3年)との戦いだったと思います」と話していました。

金谷さんについて橋田監督は、「試合に対するモチベーションを考えてコース戦略を立てることができ、相手が誰でも自分のプレースタイルを崩さない選手。決しておごらず、自分の置かれている立場を理解して行動できる生徒であることを常に考えて、日々の生活を送っています」と語りました。

今回の優勝は、金谷さんが今後大きく飛躍していく原動力になるという橋田監督。「日本アマチュア選手権大会優勝によって、ジュニアゴルファーに注目される憧れの人になると同時に、全国の人々から興味の視線を常に注がれるからです。そのため、広島国際学院高等学校の校名を汚すことなく、発言、行動には細心の注意を払って日々の生活を送ることになります」と期待を寄せました。

男子団体も初の頂点 —全国高校選手権—

山口市の宇部72カントリークラブで開催された平成27年度全国高等学校ゴルフ選手権は、8月5日に最終日を迎えました。1チーム4人中上位3人の合計スコアで争った男子団体の部で、普通科3年の関藤直熙さん率いる広島国際学院高校はトータル426をマークし、初優勝。金谷さんのアマチュア選手権優勝に続いて母校に歓喜をもたらしました。

男子団体最終結果 広島国際学院 426 (214、212)



優勝した男子団体チーム

平成27年度全国高等学校 ゴルフ選手権優勝メンバー	関藤直熙(普通科3年 駅家中学校出身)	富永暁登(普通科3年 倉敷第一中学校出身)
	金谷拓実(普通科2年 昭北中学校出身)	
	関藤侑嗣(普通科1年 駅家中学校出身)	吉田好輝(普通科1年 東原中学校出身)